

地質をもっと身近に

犬山学研究センター勉強会

名古屋経済大（犬山 市内久保）の犬山学研究センターは十日、地域固有の地質について勉強会を市役所で開いた。

これまで顧みられなかった地質に光を当て



地質図で地域の特性を説明する名古屋大学博物館の高橋特任教授（犬山市役所で

ようとして五月に初回の勉強会を開き、二回目。名古屋大学博物館特任教授の高橋裕平さん（六巴）を招き、「地質を身近に」ガイドマップと見学会の事例」と題して話を聞いた。高橋

と指摘。地質を観光に生かす参考事例として、石造建築が多い欧州で盛んな「グローバルヘリテージストーン資源」制度を紹介した。岩石を人類の文化と関連づける制度で、日本では認定例がない。

を意味する「ジオパーク」制度に言及。日本ジオパークに認定されているのは四十数カ所あり、うち八カ所は世界ジオパーク。参加者から、犬山のジオパーク認定の可能性を問われると、高橋さんは難易度が高いと

の認識を説明。認定数が既にかなりに上ることがその理由に挙げ、犬山単独ではなく窯業が盛んな瀬戸市や国内最古の石が見つかっている岐阜県内のまちと連携するアイデアを示した。

（三田村泰和）